

北医療薬会報

発行所 北海道石狩郡当別町金沢1757番地
北海道医療大学薬学部同窓会

☎ (0133) 23-0301 直通・FAX
☎ (0133) 23-1211 大学代表
発行人 田中稔泰

印刷所 (株)コルパス

札幌市中央区大通西15丁目3-5
☎ (011) 640-6803



当別キャンパス中央講義棟(増築後)

目 次

巻頭挨拶 同窓会副会長・札幌支部長 多田 正人	3
医療大学リハビリテーション学部新設についておよび学部新設に伴う 中央講義棟増築について	4
2012年度医療薬学セミナーについて	5
支部だより 茨城支部 青木 邦子先生	5
卒業生からの近況報告 22期 矢島 幹弘先生	7
2013年度オープンキャンパスおよび薬学教育・研究者育成奨学生のご案内	9
第5期生卒業30周年記念祝賀会 西村 成勲先生	10
新入生オリエンテーションの同窓会参加	11
お知らせ（北医療薬総会ならびに懇親会および第46回日本薬剤師会学術大会時 における北海道医療大学薬学部同窓会懇親会のお知らせのご案内）	12
編集後記	12

巻頭挨拶

「北海道医療大学薬学部同窓会今昔物語」

北海道医療大学薬学部同窓会副会長・札幌支部長
多田正人(4期卒)



北海道医療大学薬学部同窓会も設立して30数年、私も卒業以来、30年ほど同窓会の仕事をさせて頂いていますが、今では卒業生の子弟も毎年入学してくるようになりました。同窓会発足から10年位は、助手として残った卒業生や大学院生が、業務終了後、手弁当で名簿の管理、総会案内、会報作成・発送、その他を行っていましたが、会員数も増え学内だけでは処理できなくなり名簿管理や発送業務などを外部業者に委託することになりました。しかし、現在も学内にいる卒業生の職員には、同窓会役員をお願いし様々な面でサポートしていただいております。この紙面を借りてお礼申し上げます。

同窓会の現在の会員数は平成25年3月31日現在、4946名(今年3月は36期生が卒業)になり支部も道内6箇所、道外10箇所において運営されております。2年に1回全国支部長会を開催し、各支部での活動報告と問題点等を協議し会員の皆様に少しでも貢献できるよう努力しておりますが、全国的に薬科大学・薬学部の数が増えたことにより、道外からの入学者が減少し道外の支部会員が増えないことや、若い会員の参加が少ない等の問題点が各支部から報告されております。今後、同窓会に参加することで何らかのメリットが得られるよう工夫していかなければならないと考えています。

各支部におきましても医療薬学セミナーの開催や、他学部とのセミナー共催のほか、役員に若手を起用し同窓会活動へ多くの会員が参加しやすくする努力をしているところです。本部も評議員制度を導入しており、各期の評議員からいただいた様々な意見を同窓会運営に反映させたいと思っています。今回、この会報をご覧になった皆さんも是非一度お近くの同窓会支部の活動に顔を出してみませんか、お待ちしております。

これからも同窓会がさらに発展するよう、空白になっている地域の支部設立や、現在ある支部の分割・統合などの再編成、また健全に運営できるように会費の徴収方法の検討などに取り組んでいます。内容が少し硬くなってしまいましたが、「皆さんが気軽に参加したくなるような同窓会」になればいいかなと思いながら、もうしばらくお手伝いしようと思っている今日この頃です。

〔各期卒業30周年が継続開催中〕

平成20年に1期生が、30周年を開催しその後も昨年の5期まで連続して開催され、どの期も盛会と聞いています。今年も6期が開催予定のようですが、是非今後も続いていけばと思っています。同窓会では各期の名簿データの提供も行っておりますのでご相談下さい。

医療大学リハビリテーション学部新設について および学部新設に伴う中央講義棟増築について

2013年4月、本学5番目の学部として、リハビリテーション科学部が開設しました。新学部は理学療法学科（入学定員80名、2年次編入学定員5名）と作業療法学科（同40名、5名）からなり、既存学部を併せ5学部8学科、総収容用定員3,310名を数える東北以北有数の医療系総合大学となります。また、大学院リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻（修士課程 入学定員5名）も開設し、学部学生と大学院生を同時に迎え入れることとなりました。これら学部、大学院さらに併設の歯科衛生士専門学校を加えると4年後には3,600名を超える学生達が集うこととなります。

リハビリテーション科学部は、リハビリテーションを必要とするあらゆる人々の人権を尊重できる専門職能人として、多職種と連携しながら、科学的根拠に基づいた質の高いリハビリテーションサービスを実践し、地域や国際社会に幅広く貢献できる人材を養成することを目的とし、また、リハビリテーション科学研究科修士課程は、高度化、多様化が進む現代の保健・医療・福祉の現場において、先進的な専門知識や技術をもって質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度専門職業人並びに保健・医療・福祉現場や高等教育機関において指導的役割を担う人材を養成することを目的

として、それぞれ設置されました。

この春、理学療法学科97名、作業療法学科46名、大学院は3名の入学があり、第一期生として胸躍らせ勉学に励んでいます。

なお、これに関連して、これまで3階までの中央講義棟を10階建（延床面積79,418.39㎡

高さ45m）に増築し、講義室やCALL教室の増設を行うとともに、6,7階に最新の設備を備えたリハビリテーション科学部の実習室等を整備しました。なお、当別町で最も高層となる最上階はビューラウンジと演習室からなり、ビューラウンジからは広大な石狩平野や札幌市街、さらには、はるか夕張、芦別などの山々が見渡せます。演習室はこれまで増設を要望する声が高かったもののうちのひとつですが、大小取り混ぜ9室を整備し、グループ別学習やワークショップなどの授業に使用されるほか、個人や団体での自習スペースとしても利用可能です。また、この演習室は、ほとんどがガラスで仕切られ、中の様子がうかがえる構造となっており、学生同士が切磋琢磨し、刺激し合える環境を整備しました。特に国家試験を前にした学生達が大いに活用している姿が期待されます。

同窓生の皆様も機会がありましたら是非お立ち寄りください。

（2013.4月本学事務局より原稿受領）



■■■■■■■■■■ 2012年度医療薬学セミナーについて ■■■■■■■■■■

平成 24 年 7 月 15 日 (土)、ホテルKKR札幌において第 33 回 北医療薬 総会および医療薬学セミナーが開催されました。医療薬学セミナーには講師として本学副学長に就任されました黒澤隆夫先生をお招きして「薬物トランスポーター活性測定法の開発」と題し、御講演をいただきました。黒澤先生の長年の研究成果から得られた貴重なお話に参加者一同感銘を受け、また、質疑応答も活発に行われま



した。

講演終了後は恒例の懇親会が開催され、セミナー講師の黒澤先生そして薬学部長の和田啓爾先生にも出席をいただきました。副学長と薬学部長にご出席いただいたこともあり、同窓生は今後の北海道医療大学の進むべき道や将来の薬学あるは医療のありかたなど有意義な討論があちこちで行われていました。また、懇親会中には黒澤先生と和田先生に同窓会会長から還暦のお祝いの品のプレゼントというサプライズもあり、大変盛況かつ和やかな会となりました。



~~~~~ 支部だより (茨城支部) ~~~~~

今回の支部便りは茨城支部の青木 (4 期卒、薬化学教室) が担当させていただきます。先日、同窓会の本部から会報の支部便りの欄に茨城支部で記事を掲載してほしいとの依頼を受けました。支部便りということですので現在、茨城支部内でご活躍しているお二人の同窓生が切り盛りする薬局について紹介させていただきます。薬局の紹介と言うと、薬に携わる仕事をしている人は、無意識のうちに『どこの門前?』『どこからの処方が多いの?』などといったことを頭に浮かべる方が多いかもしれません。しかし、今回

茨城支部 青木 邦子 (4期卒)

ご紹介する西野自然堂薬局と大竹薬局は単なる門前薬局ではなく地元の方々の大切な『かかりつけ薬局』というその土地に根差した地域医療を実践している薬局です。

西野自然堂薬局 (1 期生 西野郁郎氏) は





茨城県最北端に位置する人口約 4 万 5000 人の北茨城市にあります。「しゃぼん玉」や「七つの子」の作品で有名な野口雨情の生誕地であり、日本の渚 100 選に選ばれている風光明媚な景勝地です。特に、国の有形文化大財に指定される六角堂は東日本大震災で流出し、最近、再建が完了したところで、日本美術院をこの地に移した岡倉天心が瞑想にふけたと言われている建物です。このような素晴らしい景観を有する北茨城にて大正 7 年に祖父が薬種商を開業してから、西野氏で 3 代目で、薬局として、現在に至っています。西野氏は大学卒業後、大手の薬問屋、漢方薬局で勉強をして実家に戻りました。以前は OTC の占める割合が多く、今では大型店舗で扱っている商品（粉ミルクなど）も当時から置いてあったそうですが、時代の流れと共に、取扱商品が変化しています。処方箋は多種の医療機関から集まり患者様も多様で、まさしくかかりつけ薬局としての役割を果たしています。私がお邪魔した時も、営業時間が過ぎているにもかかわらず、処方箋をお持ちになる方が次々に来て、西野氏は忙しく対応していました。取扱品目は、以前は 1500 品目ほどでしたが、一般名処方ができるようになった現在では 1300 品目に減ったそうです。大型店舗では取扱いの無い OTC もあり、相談薬局として地元の皆様から、信頼を受けています。また、薬局の 2 階にはセミナー室（約 20 坪）を設け、顧客の勉強会、近隣の薬剤師会の研修会などに使用して頂き、地域の方々の健康増進および地域医療の発展に多大なる貢献をしています。

大竹薬局 (10 期生 大竹泰治氏) は大竹氏が卒業後、横浜の漢方薬局で研修を経て、平成元年につくば市に帰郷した時が今の薬局としての原点になります。つくば市全体の人口は約 21 万人、薬局のあ

る谷田部町は昭和 62 年に近隣の町村と合併つくば市となった人口約 7000 人の地区です。昭和 30 ~ 40 年代がピークの旧商店街で、現在ではシャッター商店街になっています。先代が明治時代に開業し現在 4 代目です。帰郷後、茨城県つくば市に支店を開局し、その後、平成 9 年神栖支店開局、平成 15 年鹿嶋支店開局、平成 24 年にはつくば市竹ノ塚支店 (OTC のみ) 開局し、現在では支店 4 店舗を切り盛りしています。谷田部本店薬局は約 20 坪、調剤薬約 500 品目、OTC 約 400 品目です。以前は OTC の販売が多かったそうですが、現在は院外処方箋の調剤が主な仕事になっています。約 20 年前、筑波大学が院外処方箋を発行しはじめてから、薬局の仕事内容が変わってきました。現在は 1 キロほど離れたところにある小児科診療所の処方箋が 70% ですが、他に、地域の病院や診療所の調剤もしているそうです。また郊外の高齢者施設の一包化調剤もしており、多方面にわたって活躍しています。

ご紹介しましたように、西野自然堂薬局、大竹薬局それぞれ仕事内容の差異はありますが、どちらの薬局とも地域に密着した、かかりつけ薬局として地域医療に大変な貢献をしています。

このように地域に根付きなおかつ多方面にわたって『かかりつけ薬局』として努力なさっている同窓生が身近に存在すること、そしてこういった活躍、貢献ができる『薬剤師』という資格を持っていることを私自身誇りに思います。



■■■■■■■■■■ 卒業生からの近況報告 ■■■■■■■■■■

薬学と薬剤師の幅広さ ～卒業生からの近況報告～

第22期卒業（病態生理学教室） 矢島 幹弘 さん

平成25年3月の初め、終業後の通所介護施設“デイサービスあいぎ”の事務室で一人「介護給付費明細書（介護レセプト）」を作成していたところ携帯電話が鳴った。22期同期生として吹奏楽部で6年間共に活動した町田拓自先生（現、薬理学講座薬理学講師）からだ。「同窓会の会報に近況報告を書いて欲しい」。自分もそのようなお話を頂く年頃になったのかと複雑な気持ちを覚えるとともに、「介護レセ」を作成しているような私が、30年以上の伝統をもつ北医療薬の会報に近況報告を記させていただくなど、おこがましいとも感じたのが正直なところ。しかし、町田先生曰く「薬剤師以外の仕事をしているOBのコメントを期待している」とのこと。確かに、大学卒業後、少々変わった職歴を経ていると自覚していることもあり、このご依頼をお受けした次第です。

私は、鍼灸師の父の影響もあり、医療大薬学部入学当初から「東洋医学・漢方薬」に関心を持っていました。植物研究会にも（名前だけ）所属し、九十九祭で作るコーヒーの為にタンポポの根を集めた記憶も鮮明に残っています。薬学部3年生の秋、就職を少しずつ意識する時期となった私は「漢方をやるならまずは一番大きいメーカーへ行きなさい！」という就職課の先生の熱いアドバイスを胸に、某漢方メーカーの入社試験を目指し、人事部へせつせと手紙を出しました。しかし、時は大不況の1998年。確かに手紙を出したにも関わらず音沙汰無いまま薬学部4年生の夏となり、病院実習を終えた頃、当別のアパートにバスクリン[®]とともに届いた封書には「諸般の事情により来春の新卒採用は行いません」の文字。さすがに焦りと迷いを覚えました。22歳の若者らしく「2年待てばなんとかなるだろう」という科学的根拠に基づ

かない確信を抱いて大学院薬学研究科修士課程に進みました。今思うとこの選択は極めて幸いなことで、修士課程時代に井出肇教授（病態生理学教室・医科歯科クリニック初代院長）や大野孝正助教授の下、薬学研究に加えて「症例報告」や「臨床疫学」という当時の薬学部らしからぬ研究を叩き込んでいただけたことが、社会人になってから大きく役立ちました。根拠はなくともその通りに成立してしまう事象もあるもので、修士2年の蝦夷梅雨の頃、日本の名湯[®]とともに「来春から新卒採用を再開します」のお手紙をいただいた時は胸が熱くなりました。MR時代、東洋医学をお好きでないDrに漢方薬を処方していただくまでのプロセスを楽しみながら仕事をしていましたが、漢方薬とともに東洋医学の両輪となる「鍼灸」という学問に引かれてしまいました。漢方薬にご関心をお持ちの先生方であればご理解いただけますが、脈診・腹診などを駆使して自分なりに陰陽虚実にて代表される、いわゆる「証」を把握してみたいのです。私は、遠回りして就職した会社を悩みながら退社し、昼は調剤薬局勤務、夜は鍼灸の専門学校生という生活へ舵を切りました。この頃から、気付き始めたことがあります。それは「薬学の幅広さ」です。



東日本大震災の翌月に福島県会津地方へ（著者・右上）偶然出会った札幌市保健チーム（医師・保健師・事務）とともに薬剤師として災害時医療へ従事

鍼灸師の養成課程(専門学校)は3年間で国家試験を目指すため、意外にタイトなカリキュラムです。クラスメイトの半分は社会人経験者ですが、1-2年次で退学する同級生も少なくありません。しかし、医療大で学んだ教養科目から基礎医学まで、多くの事柄が予想以上に役立ち、管理薬剤師をやりながらも何とか3年で鍼灸師となることができました。医療関連資格の養成課程ではどこでも「公衆衛生学」があり、教員にも学生にもとっつきにくい科目とされているようですが、薬学部の公衆衛生科目で鍛えられた身からすれば水を得た魚です。唯一、苦勞した科目は解剖学です。現在も薬学実務実習生を指導する度に、少し意地悪ですが解剖学関連の質問をしてみます。【Rp. ○○○パップ 左足関節 貼付】という処方箋をみて、「どこに貼るのかな?」と問うと多くの学生は明確に答えられません。医師の意図は「左そく関節=左足首」なわけですが、薬学生は「左足の関節・膝? 股? 足首?」と悩んでいます。基本的な体表解剖ですが、このあたり薬学部カリキュラムの盲点かもしれません。話はそれでしたが、その後、介護支援専門員(ケアマネジャー)を取得したことを機に、家業である会社に入り、現在は、鍼灸院の外来・往診と併設するリハビリ重視型の通所介護(デイサービス)施設の運営、そして調剤薬局チェーンの教育研修担当の3足のわらじを生業としております。

わらじは3足ですが、根底にあるものは「薬剤師」であると自負しております。私自身、薬学や薬剤師は



介護予防運動指導員としてデイサービスでの機能訓練中。
自分にとっても貴重な運動時間です

専門性が高いゆえに、守備範囲が狭いと誤解していた節がありますが、薬学以外の分野で仕事をしてみますと、介護や東洋医学の世界でも、薬剤師の職能は存分に発揮できることを実感しています。鍼灸院を訪れる患者さんにもお薬手帳の提示を求めています。「胃腸の調子が悪い」という患者の中にも、ファモチジンの服用で楽になる方もいれば、H₂ブロッカー無効でモサプリドクエン酸塩の服用で初めて楽になる方もいます。この情報は鍼灸治療を行う上でも多くの示唆をもたらします。また、デイサービスにおいて新規利用者をお迎えする際、同じ「要介護1」であっても常用薬のほとんどない方と「ドネペジル塩酸塩 10mg+メマンチン塩酸塩 20mg」の服用者では、予想される半年後の介護ニーズは異なり、自ずと介護計画書や機能訓練計画書の内容も大きく異なってきます。薬剤師として、当然のように得られるこの様な気づきが、他の医療・介護関係職の皆様からはとても重宝されており、信頼を寄せていただくきっかけとなっております。

日本最古の天守閣と言われる国宝犬山城が位置する静かな街で、小さな会社を営んでおりますが、医療大薬学部で学んだこと、そして薬剤師が有する幅広い職能を武器に、地域の医療・介護の世界でお役に立ちたいと考えております。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。同窓生の皆様の見学、いつでも大歓迎です!

株式会社あいち統合医療 取締役 矢島幹弘(22期)

【連絡先】

〒484-0086 愛知県犬山市松本町一丁目45番地
ハーモニービル

Tel : 0568-63-3930

mail : aigi@asahi.email.ne.jp

http://www12.ocn.ne.jp/~aichi-im/

2013年度オープンキャンパス
および薬学教育・研究者育成奨学生のご案内

今年度も北海道医療大学オープンキャンパスが開催されます。

開催日

2013/6/23(日)、2013/8/ 2(金)

2013/8/ 3(土)、2013/9/22(日)

※いずれの日程も11:00～16:00まで

内容

- 大学概要説明 2013年度入試結果及び2014年度入試概要について説明を行います。
- 学内施設見学 興味のある学部・学科に分かれて施設見学を行います。
- 体験実習
または模擬講義 興味のある学部・学科に分かれて行います。
- 保護者ガイダンス
- 個別進学相談 ※ランチ付き

入学試験について

将来の薬学教育・研究者を育成・支援する目的としてあらたな入試制度(奨学生制度)が誕生しました。

『薬学教育・研究者育成奨学生』の概要

本学薬学部を卒業後、本学大学院薬学研究科博士課程に進学し、研究科修了後教員として本学薬学部の教育・研究を支えることを志望する者で、人物・学業成績とも優れている者を支援します。

- 第4学年まで本学と国公立大学の学納金の差額相当分を減免。
- 第5学年以降は、本学大学院への進学を引き続き希望し、学業成績が上位1/4以上の者に対して、差額相当分を引き続き奨学金として貸与。

センター前期A・一般前期入試において実施。

対象者(出願資格)：本学薬学部を卒業後、本学大学院薬学研究科博士課程に進学し、研究科修了後教員として本学薬学部の教育・研究を支えることを志望する者で、人物・学業成績とも優れている者。

高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者及び平成25年3月卒業見込みの者。その他詳細は平成25年度入試に準ずる。
(対象 3名程度)

オープンキャンパスおよび薬学教育・研究者育成奨学生詳細に関するお問い合わせは入試広報課まで

E-mail: nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■■■■■■■■■■ 第5期生卒業30周年記念祝賀会 ■■■■■■■■■■

北海道医療大学薬学部5期生同窓会 卒後30周年会を終えて

薬学部 5期 西村 成 勲

4期生の先輩から1万円札の入った祝儀袋を頂いた。君達5期生は、来年で卒後30周年になるので同期会をやるようにと……。私達5期生は、道東の音別の校舎で、薬学の4期生、歯学部の1期生と寮生活を一緒に送った、最初で最後の学年である。先輩にやれと言われたら「はい!」と言ってしまふ関係(仲)である。早速、札幌に住んでいる同期生に幹事をお願いした。同窓会の総会と同期会の区別が伝わらなくて困ったが、みんな快諾してくれた。男子4名、女子2名での同期会の準備会(飲み会)が始まった。場所は串鳥(札幌駅前店)と決まっていた。安くて旨い!

複数回の準備会(飲み会)の後、同期会場所の視察(京王プラザホテル札幌)を、こだわりの幹事達が仕切ってくれた。

会のために膨大のライドショーを学生時代の写真から作ってくれた、正田氏に感謝。これが良くて参加者全員で見入った。また、司会は息子がミュージシャンの笹木氏。これも卒後30周年のイベントを盛り上げるジョークに富んだ司会ぶりであった。離婚した同級生同士をひな壇にあ



げて裁き、大変だった。武田薬品の坪田氏、ゴスペルの中島女史、プロゴルファー≡平尾女史、そして私、北のイトウ釣り師西村が幹事をさせてもらった。

乾杯は沖縄から参加の德里女史(旧姓国吉)にして頂いた。学生時代、Tシャツとジーンズが似合う女の子が素敵なマダムになっていた。会場の皆が驚いた「あのりえちゃん!」、会はサプライズから始まり、みんなを引き込んでいった。集合写真・一次会・二次会そして夜の12時からの三次会と宴は深夜2時までであつという間に過ぎてしまった。8時間ずっと話しが尽きることなく、59名の参加者全員が今日という日の非日常に興奮した。

数人の集まりでは、各自の健康の話や仕事・家庭の愚痴が出てしまうが、こんなに沢山の同級生(十代から二十代、大人になる時を一緒に過ごした仲間)が集まっていると元気な話題しか出てこない、明日からの元気をもらったと皆が口にした。なぜもっと早くから集まって同期会をやらなかったのかと……。

また、4年後の同期会を約束して別れた。皆が健康で次回も会えることを願ってやまない。(次回はフェースブックを活用したい。)



北海道医療大学薬学部5期同窓会

2012年7月14日

於 京王フラサホテル札幌

YouTube への投稿 (合計1,949回の再生回数)

<http://www.youtube.com/watch?v=fdDj6eNYsRQ>

新入生オリエンテーションの同窓会参加

薬学部新入生 186 名を対象とした宿泊オリエンテーションが 4 月 10 日～11 日の日程で定山溪ビューホテルにて開催されました。新入生のクラス担任を始めとする本学教職員さらには田中稔泰同窓会会長および同窓会関係者教員 5 名も参加し、同窓会提供イベントとして講演会およびクイズ大会を実施しました。講演会では、本学第 5 期卒業生の高崎雅彦氏（北海道がんセンター薬剤科長）に「病院薬剤師の仕事」についてご講演いただきました。引き続き行われたクラス対抗でのクイズ大会は大いに盛り上がり、新入生同士の交流も深まったようでした。



第34回 北医療薬 総会および懇親会のご案内

(医療薬学セミナーのご案内)

第34回 北医療薬 総会および懇親会を下記のとおり開催いたします。総会は同窓会発展のために皆様からのご意見を頂戴し、活動方針について審議いただく貴重な機会です。多くの皆様にご参加いただき、ご意見を賜りながら、親睦を深めていただきたいと思います。是非、お誘い合わせのうえ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

総会終了後、北海道医療大学薬学部長 和田 啓爾教授を講師に迎え医療薬学セミナー（札幌支部主催）を開催いたします。

記

日 時：平成25年6月29日（土）

- ・北医療薬 総 会：17時00分
- ・札幌支部 総 会：17時45分
- ・医療薬学セミナー：18時00分

「小児に散発する银杏中毒について ～基礎と臨床の連携～」

北海道医療大学 薬学部長 和田 啓爾 教授

- ・懇 親 会：19時30分（セミナー終了後）

*セミナーは、札幌支部主催ですが、どなたでもご参加いただけます。

*セミナーは、北海道医療大学薬剤師支援センター認定研修(1単位)です。

会 場：ホテルKKR札幌

札幌市中央区北4条西5丁目 TEL (011) 231-6711

懇親会費：3,000円（当日申し受けます）

*出欠席のお返事は同封の返信用ハガキまたは、同窓会ホームページ（北海道医療大学 → 薬学部 → 同窓会）で 6月15日 までにお知らせください。ハガキでのご返信の場合は、委任状への署名も合わせてお願いいたします。 同窓会ホームページ：<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~phalumni/>

第46回日本薬剤師会学術大会時における 北海道医療大学薬学部同窓会懇親会のお知らせ

2013年9月22-23日に大阪（大阪国際会議場）において第46回日本薬剤師会学術大会が開催されます。全国から薬剤師および薬学関係者が参加する学術大会であり本学卒業生も毎年多数参加しています。そこでこの機会を利用して北海道医療大学薬学部同窓会懇親会を開催いたします。同窓生の皆様はふるってご参加下さいますようお願いいたします。

- 日時 2013年9月22日（日）18時より
- 連絡先 関西支部 澤田昇まで 電 話 072-823-7727
- 場所 リーガロイヤルホテル大阪 2階梅の間 PHS 070-6800-2800
- 会費 5千円程度を予定しています メール sawada@popura.jp



新年度を迎え本学にはフレッシュな新生が入学しました。そんな彼らをみていると厳しかった冬の終わりそしてさわやかな春の到来を感じさせます。しかし、5月になっても北海道は寒い日々が続く札幌ではいまだ桜の便りも聞けません。会報内でご紹介しましたように今春中央講義棟が10階まで増築されました。最上階から見渡す景色は絶景です。ぜひ最上階からの眺望の写真を本会報に掲載しようと何度か撮影を試みましたが、あいにくの天気が続き今回は断念しました。次回は新生の心のように澄んだ青空のものと札幌市や当別近郊の山々の景色を掲載した会報を同窓生の皆様にお送りできればと思います。 (S・K)